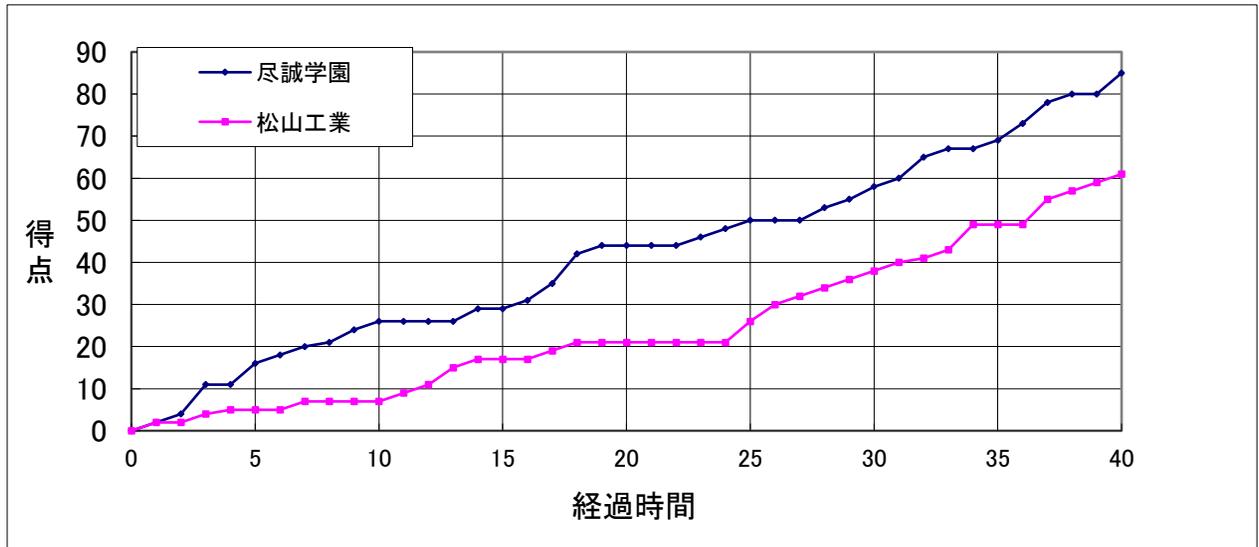


大会名	第76回四国高等学校バスケットボール選手権大会	A2	10:40	男子準決勝																	
		尽誠学園 (香川県)	85 ○	<table border="1"> <tr><td>26</td><td>-</td><td>7</td></tr> <tr><td>18</td><td>-</td><td>14</td></tr> <tr><td>14</td><td>-</td><td>17</td></tr> <tr><td>27</td><td>-</td><td>23</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	26	-	7	18	-	14	14	-	17	27	-	23	-	-	-	61 ●	松山工業 (愛媛県)
					26	-	7														
18	-	14																			
14	-	17																			
27	-	23																			
-	-	-																			
<table border="1"> <tr><td>26</td><td>-</td><td>7</td></tr> <tr><td>18</td><td>-</td><td>14</td></tr> <tr><td>14</td><td>-</td><td>17</td></tr> <tr><td>27</td><td>-</td><td>23</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	26	-	7	18	-	14	14	-	17	27	-	23	-	-	-						
26	-	7																			
18	-	14																			
14	-	17																			
27	-	23																			
-	-	-																			
期日	2023年(令和5年)6月18日(日)																				
会場	高知県春野総合運動公園体育館																				

主審 若山 輝紀 副審 前田 周二
藤田 公介



尽誠学園

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
0	* 川端 拓海	6	0	3	0	2
2	金山 颯	11	0	5	1	1
7	叢手 海叶	13	3	2	0	1
9	佐々木 泰佑	3	0	1	1	2
13	* 宮崎 忍(C)	10	1	2	3	1
15	萩野 隼成	9	0	4	1	1
17	橋本 真尋	-	-	-	-	-
24	土井 爽生	4	0	2	0	1
27	アマダスンエセワイ 藤	-	-	-	-	-
29	加藤 佑一朗	2	0	1	0	2
31	山田 拓郎	-	-	-	-	-
32	* 竹田 造	4	0	2	0	1
46	* 山本 晴大	11	1	4	0	0
77	三瀬 央翔	12	1	4	1	3
99	山田 佳輝	-	-	-	-	-
コーチ 色摩 拓也						
合計		85	6	30	7	

松山工業

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 仙石 勇太(C)	6	1	1	1	0
5	* 中岡 涼介	10	0	4	2	4
6	* 大澤 義康	15	1	6	0	2
7	* 矢野 義鷹	14	1	5	1	3
8	* 土田 想太郎	8	0	4	0	0
9	津田 信也	-	-	-	-	-
10	中村 珀斗	-	-	-	-	-
11	兵頭 大翔	-	-	-	-	-
12	三瀬 京太郎	-	-	-	-	-
13	長野 晃己	-	-	-	-	-
14	向井 絢哉	-	-	-	-	-
15	越智 颯太	-	-	-	-	-
16	永田 隆己	0	0	0	0	1
17	山口 翔立	-	-	-	-	-
18	篠宮 遥斗	8	0	3	2	1
コーチ 池松 健彦						
合計		61	3	23	6	

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

男子準決勝は堅守速攻を武器に勝ち上がった両チームの注目の一戦となった。
 第1ピリオド、両チームともにハーフコートマンツーマンでスタートする。立ち上がり尽誠学園は、#0、#13の個人技や#46のアウトサイドシュートで得点を重ね、主導権を握る。対する松山工業は、#8の得点などで応戦するが、チーム全体としてアウトサイドシュートの精度が上がらず、尽誠学園がリードを広げ、26-7で第1ピリオドが終了する。
 第2ピリオド、松山工業は#7のアウトサイドシュート、#6のインサイドプレーによる連続得点で点差を縮める。尽誠学園は#2、#24らの個人技を中心に攻撃を展開し、リードを保つ。松山工業は#6、#18がリバウンドからの得点でつなげば、尽誠学園が個人技で得点する一進一退の第2ピリオドとなり、前半を終了した。
 第3ピリオド、松山工業はゾーンDFに変更する。対する尽誠学園は、アウトサイドシュートで攻略を図るが精度が上がらず、#0、#77の個人技で得点する。松山工業は#5、#7のゴールへのアタックが増え得点を伸ばすが、点差が縮まらないまま第3ピリオドが終了する。
 最終ピリオド、松山工業はゾーンプレスやリバウンドなどのハードワークで食らいつづけるが、要所でのメンバーチェンジなどでトラブルの修正に努め、最後まで安定した試合運びで尽誠学園が85-61で勝利した。

記載者 谷内 陽 (所属) 高知県高体連